発行所
札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部同窓会
TEL&FAX(011)706-5007
E-mail:furate@med.hokudai.ac.jp
http://www.med.hokudai.ac.jp/~alum-w/
編集人　田中　伸哉
発行人　浅香　正博

北大医学部同窓会新聞

「流氷の門」　松本（まつもと）　侑希保（ゆきほ）（98期 医学科2年）

CONTENTS

(1)・新しい年を迎えて……浅香　正博
・年頭のご挨拶……吉岡　充弘
(2)・エルムの仲間達へ⑦……村中　璃子
・最近の国家試験対策の現状
……川村　拓朗
・理事会・評議員会報告
(3)・理事会・評議員会報告
・北海道大学医学部創立100周年
記念事業募金へのご協力のお願い
・フラテ104号発行のお知らせ
・フラテ祭2017開催報告
(4)・総会、新入会員歓迎会のご案内
・告知板
・事務局からお知らせ
(5)・北海道大学病院男女共同参画推進室を
ご存知ですか？……清水　薫子
・新刊書紹介
(6)・新刊書紹介
・北海道医学会からお知らせ
・同窓会費の納入は口座振替で
・同窓会ホームページURLの
変更について
・ご逝去者
・一面の写真説明
・編集後記

新しい年を迎えて

北海道大学医学部同窓会
会長　浅香（あさか）　正博（まさひろ）（48期）

新年おめでとうございます。冬の寒さがひときわ厳しくなってきておりますが、同窓会の皆様にはお変わりございませんか。昨年は、1月にアメリカのトランプ大統領が就任し、これまでのアメリカ大統領では考えられなかったことが次々に起こり、何が起こるか予測困難な時代になってきました。それに呼応するかのように北朝鮮が核実験を行い、弾道ミサイルは北海道の上を通り過ぎ、米朝でいつ大きな戦争が起こっても不思議でない状況が出来つつあります。わが国で自然災害以外にJアラートが作動するとは考えてもいなかったのですが、わずかな期間に二度も作動したことに驚いています。核シェルターの普及率はイスラエルとスイスが100％でアメリカとロシアがほぼ80％、シンガポールでさえ、50％を超えています。然るにわが国は0.02％ときわめて低く、隣国にこれほど危険な国が存在するのに、理解しがたい不思議な状況とも言えます。良いニュースと言えば、将棋の最年少プロの藤井聡太4段がデビュー以来無敗の29連勝を飾ったことくらいでしょうか。稀勢の里がやっと横綱になりgood newsと喜んだのですが、その後、怪我で休場が続くという心配な事態になっています。

北大医学部は来年、創立100年を迎えます。100年という区切りはきわめて大きく重いものであり、この年は、北大医学部同窓生にとって何よりも重要な年になることが予想されます。100周年記念行事のための寄付目標を10億円と定め、一昨年4月より募金活動を開始しております。現在のところ、90周年の時より多くの寄付が集まっているようですが、目標に達するまでは安心できません。大口の寄付集めに多くの関連企業への訪問が始まっておりますが、あくまでも100周年の寄付の中心は同窓会員であることを忘れてはならないと思います。

いよいよ2018年が始まりました。あと残りは1年しかありません。同窓会会員の皆様におかれましては100年に1度の大きなイベントの成功に是非ともご協力のほどよろしくお願い申しあげます。最後になりますが、北海道大学医学部同窓会会員の皆様方のご健康並びにご多幸を心からお祈りし、年頭の挨拶といたします。

年頭のご挨拶

医学部長・医学研究院長　吉岡（よしおか）　充弘（みつひろ）（60期）

明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年7月に北海道大学総長より、第3期中期目標期間（平成34年3月までの期間）における財政計画および教員人件費削減方策の策定ならびに平成29年度部局配分ポイント（人件費）等について、通知がなされました。教員人件費削減方策の内容は、平成28年度配分ポイントから7.5%分のポイントを減じたポイントの範囲内で教員人事を行うことを原則としました。医学部では大学設置基準の必要人数（専任教員140名［うち、教授30名以上、准教授又は講師30名以上］）を満たすことも必要であり、この度の人件費ポイント削減は、非常に厳しいものがありました。しかし、国内外からは、大学院や学部における教育研究、社会貢献及び診療を推進することがこれまで以上に求められており、この求めに応ずることは、大学の中期目標の達成に貢献できると考えているところであります。したがって、この逆風の中、これまでの人事制度や教室への人件費ポイント配付数の見直しを行うなど、より適切な部局運営及び教室運営が実現できるようにしたいと考えております。

今や国立大学法人も自ら収入を確保し、財源の多元化を図ることが不可欠な時代になりました。医学部は外部資金の獲得において学内首位の実績を挙げていますが、自助努力により財政基盤のさらなる強化を図っていく必要性を痛感しております。

このような状況下ではありますが、平成31年に迎える医学部創立100周年への取り組みを推し進めなければなりません。皆様には一昨年4月に趣意書を差し上げ、100周年記念事業の概要を説明申し上げるとともに寄附のお願いをさせていただきました。その主要事業内容として医学部百年記念館の建設と教育研究基金の設立を柱としております。昨年1月に後援会設立総会が挙行され、医学部同窓会長の浅香正博先生に会長をお引き受けいただき、学外からもご支援をいただく体制が整いました。本事業は皆様のご支援なくして成功は望めません。事業の成功に向けて更に努力してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

新年が皆様にとりましてすばらしい年となりますことをお祈り申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。

エルムの仲間達へ⑦　『メディアと医学の間で』

医師・ジャーナリスト、
京都大学医学研究科
非常勤講師
村中　璃子（むらなか　りこ）

＊編集部注：村中先生は今年度のジョン・マドックス賞（記事参照）を受賞されました。おめでとうございます。

真っ赤になった400字詰めの作文用紙が今でも目に浮かぶ。小学校2年生の時の宿題だ。鉛筆で書いた「うれしかった」「楽しかった」「おもしろかった」は、すべて赤字の二重線で消されていた。涙を浮かべて黙っている私に新聞記者だった父は言った。「こういう言葉を使わずに、同じことを表現してみろ」。そして「新米の新聞記者の書いたことなんて一文字も新聞には残らないのが普通だ」と畳みかけた。私は大泣きし、間に入った母と父は大喧嘩になった。私は文字を書く仕事だけは絶対にやるまいと幼心に誓い、めでたく医者になった。

幼き日のあの決意はどこに行ってしまったのだろう。気づくと私はメディアに文章を書くようになっていた。メディアといっても、新聞やテレビへの出番はほとんどない。月刊誌や週刊誌、ウェブ、時にはスポーツ新聞やグラビア誌など、メディアに貴賤があるとすればどちらかというと賤の方に数えられるメディアが私の仕事場だ。医者で文字を書いている人はこの世に山ほどいる。けれども、新聞記者やレポーターのように取材をして一般向けの文章を書くという医者はあまりいない。

タレントやコメンテーターとはちがって、同じメディアでも文字で勝負する仕事は儲からないし地味だ。それでも、ここ数年、医者をする時間をミニマムにして書く仕事を増やしている。編集者にも医者にもなぜ？とよく聞かれる。が、すっきりした答えはない。

はじめに、世界保健機関（WHO）の新興感染症チームでの仕事の経験を生かした、エボラ出血熱と軍事の問題について記事が読まれた。続いて、遺伝子検査ビジネスや臓器移植、水素水など、科学や医療をめぐる社会問題をテーマにあれこれ書いていった。しかし、私に桁違いの読者をもたらしたのは、2015年10月に発表した「あの激しいけいれんは本当に子宮頸がんワクチンの副反応なのか？」という記事だった。市場に出て10年。子宮頸がんワクチンは、世界約130ヶ国で安全に使用されWHOも接種を推奨している。ところが日本では、このワクチンが薬害を起こすと訴える人が相次いで使われなくなっていることの背景を書いた記事だ。反響の大きさに、その後、いくつもの続編も執筆することになった。

調子よく書いてはいたものの、2017年8月、元信州大学副学長で元医学部長の神経内科医、池田修一氏から名誉棄損で裁判を起こされた。池田氏がTBSのNEWS23や厚労省での成果発表会で行った、子宮頸がんワクチンを打ったマウスの脳だけに障害が起きたという発表について調査し、「捏造」と書いたことに対するものだ。池田氏が発表を行ってから2週間後の3月30日、子宮頸がんワクチンによる被害を訴える団体が集団提訴を予告する記者会見を開いた。7月27日には、世界初となる子宮頸がんワクチンをめぐる国家賠償請求訴訟が提起された。

国も私も訴えられてしまうという異常事態の中、面倒を恐れるほとんどの主要メディアで私は出禁となった。日本のメディアの意気地と矜持の無さに呆れ、絶望的な気持ちにもなった。しかし、医学部長で副学長という国立大の教授が学会で反論するわけでも再現性を示すわけでもなく、小娘相手にいきなり裁判を起こした事件は医学界を中心に注目も集めた。応援してくれる人も増えた。そして、2017年11月30日、「科学界のピューリッツア賞」と呼ばれる、ジョン・マドックス賞を受賞した。マドックス氏は『ネイチャー』の編集長を22年務めた人物で、マドックス賞は、敵意・困難に合いながらも公共の利益のためサイエンスを広めることに貢献した人物に与えられる賞である。受賞は『ネイチャー』ほか国内外のメディアで報じられた。

医者の間では、マスコミの低レベルを嘆き、マスコミに発言をつままれたと怒り、朝日新聞やNHKの医学報道の誤りを指摘することは日常茶飯事だ。しかし、実際にメディアの世界に飛び込んでみなければ分からないこともある。そのひとつが「核心をつくと人は怒る」ということだ。笑顔で淀みなく答えている取材相手が真実を語っていることは少ない。マドックス賞の審査委員会も、真実と科学に基づく私の言論活動を法的手段で黙らせようとする力が働いたと評した。

ここで冒頭の「赤い作文用紙」の話に戻る。思えば父も若く、ただ虫の居所が悪かっただけのことなのかもしれない。しかしひょっとすると、本当の本当に小娘だった私の作文にあの日父が赤を入れてきたのは、幼き日の私が、何か父を本気で怒らせるような核心をつくことを書いたからではなかったのか。何を書いたのか全く覚えていないし、父も忘れてしまっただろうが、そうだったということにして本稿を終える。

最近の国家試験対策の現状

北大病院研修医1年
川村　拓朗（かわむら　たくろう）
（93期）

医師国家試験は真冬の三日間で行われる医学生にとっての一大イベントです。時代によりその形式は変化していますが、ここ数年はより臨床を重視した問題が多くなってきている印象です。具体的な問題は残念ながら半年前であり覚えていないです(許して頂きたいです)。かすかな記憶をたどると、小児外来で入院させるべきか、翌日外来受診を進めるか、経過観察かの見極めや、細菌性感染とウイルス性感染の身体所見の違いなどがあったかと思います。特に今回の国家試験で話題となったのは必修問題の難化でした。初日の必須問題終了時の動揺は隠し切れないものでありました。

最近の国家試験合勉強の王道はネット講座です。ここが数年前との大きな違いでしょうか。QB（Question bank）主体の勉強も勿論廃れてはいないですが、少数派になりつつあるのは事実です。予備校の講師の言うことを聞いていれば、ほぼ確実に合格点まではたどり着けます。模擬試験の数も全て受けると5回以上になり、1問1問に丁寧な解説付きです。なんと恵まれた環境なのでしょうか。さらに、5年生の4月からネット講座は受講することが可能であり、さらに、6年生のための自習室は一昨年度より新しくなりました(狭くもなりました)。新しい自習室で我々は勉強会を開催しておりました。どの学年にもブレインと呼ばれる尊き存在に支えられていたかと思います。そうした方々を中心とした勉強会は非常に有意義でした。互いに教え合うというより、ブレイン達の溢れ出んばかりの知識を一方的に吸収しておりました。時にはクイズ形式など和気藹々とした雰囲気で学ぶことが出来、自習室での仲間との時間はストレス発散にも貢献してくれました。そして、ネット講座、勉強会のおかげで、年明けには既にやることがなく、日に日に勉強時間が低下していく同期も散見されました。

さて、今年の北海道大学の合格率は88.3%（編集部注）と実に残念な結果となってしまいました。我々の学年は優秀であるといったニュアンスのお言葉を2年生の頃より頂いておりましたが、蓋を開けてみたら92期より低い合格率をたたき出しました。ぜひ94期の皆さんには国公立大学ほぼ最下位の汚名返上をお願いしたいと思います。

最後になりますが、このような同窓会誌への執筆の機会を与えて頂き誠にありがとうございました。

［※編集部注釈］2017年の国試の状況です。

（編集部注釈）執筆内容を保管するため今年の国試の状況を掲載します。ご参考まで。

【第111回】　実施　2017.2.11-13

	総　数			新　卒			既　卒			新　卒
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	全国順位
北大医学部	**113**	**96**	**85.0%**	**103**	**91**	**88.3%**	**10**	**5**	**50.0%**	**64位**
旭川医大	137	127	92.7%	126	118	93.7%	11	9	81.8%	38位
札幌医大	121	111	91.7%	117	107	91.5%	4	4	100.0%	54位

理事会・評議員会報告

理事会

日　時：平成29年11月16日（木）
　　18：30 ～ 19：05
場　所：医学研究科　中会議室
出席者：会長、副会長1名、理事6名
同席者：監事2名、評議員会議長、
　　副議長

評議員会

日　時：平成29年11月16日（木）
　　19：30 ～ 19：55
場　所：医学研究科
　　学友会館「フラテ」　大研修室
出席者：55名
　　（出席　9名、委任状提出46名）
同席者：会長、副会長1名、理事7名、
　　監事2名

【協議事項】

1. 役員候補者選考委員会の設置について
　現役員の任期が平成30年3月末日で満了することから、役員候補者選考委員会に関する要項に基づき、評議員会に次期役員候補者選考委員会を設置することが了承されました。なお、選考委員には西澤典子（56期）、篠原信雄（60期）及び矢部一郎（67期）の各氏が選考委員会委員に指名され、受諾後、了承された。

【報告事項】

1. 評議員、予備評議員の一部交代について

平成28，29年度の2年間を任期とする現評議員、予備評議員の一部交代について報告されました。

2. 平成29年度庶務、事業報告について

庶務報告として、今年度の定時総会及び新入会員（卒業生）歓迎会を平成30年2月11日（日）に札幌パークホテルで開催する旨報告されました。

事業報告として、同窓会新聞の発行状況、同窓会誌発行進捗状況が報告されました。

3. 平成29年度会計収支中間報告について

9月末日現在の平成29年度会計収支状況について報告されました。

4. 平成30年度以降の会費免除について

会則第6条第2項の規定に基づき、昭和37年卒業の第38期の会員は平成30年度の会費から免除となることが報告されました。

5. その他

⑴医学部創立100周年記念事業について

浅香会長から、創立100周年記念事業基金の寄附状況について報告されました。

次いで、吉岡副会長からも記念事業基金の寄附状況の説明と協力について報告されました。

⑵その他

北海道大学医学部、北海道大学病院、北海道大学医学部同窓会合同新年会および医学部創立100周年記念事業後援会総会を明年1月11日（木）に札幌グランドホテルで開催することが報告されました。

北海道大学医学部創立100周年記念事業募金へのご協力のお願い

北海道大学医学部は、来る2019年（平成31年）に創立100周年を迎えるにあたり、北海道大学医学部百年記念館の建設を柱とするいくつかの記念事業を計画しております。

同窓会の皆様を始めとする関係各位におかれましては本事業の趣旨をご理解いただき、格別のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

募金要綱につきましては、「北海道大学医学部創立100周年記念事業基金募金趣意書」に記載しております。

趣意書につきましては、以下の方法で取得いただけます。

①ウェブサイトからのダウンロード
北海道大学医学部創立100周年記念事業ウェブサイト
(http://www.med.hokudai.ac.jp/100th/)
からダウンロードいただけます。

②メールまたはお電話によるご請求
医学系事務部総務課庶務担当
(E-mail：shomu@med.hokudai.ac.jp
電話：011-706-5085、5004)
までご連絡ください。趣意書を郵送にてお送りいたします。

北海道大学医学部創立100周年記念事業実行委員会
募金活動小委員会委員長　吉岡　充弘

(問い合わせ先)
北海道大学医学系事務部総務課庶務担当
011-706-5085、5004
shomu@med.hokudai.ac.jp

1919-2019 100 YEARS ANNIVERSARY 北海道大学 医学部 創立100周年

北海道大学医学部創立100周年記念事業基金

寄附状況

（フロンティア基金事務室からの連絡分（平成29年9月末入金確認まで））

寄附者		件数	金額
医学部・病院教員等		119	22,810,000
（内訳）	教授	28	11,000,000
	准教授	17	3,500,000
	講師	11	2,050,000
	助教・助手	37	4,060,000
	特任教授	2	400,000
	特任准教授	1	300,000
	特任講師	0	0
	特任助教	7	700,000
	医員	16	800,000
医学部卒業生		247	90,387,000
病院		22	36,140,000
企業等		8	4,630,000
その他（講座等）		1	15,803,636
その他（同期会）		2	6,025,000
その他（個人:学生の保護者、篤志家、名誉教授（卒業生以外）など）		35	14,740,000
合計		434	190,535,636

フラテ104号発行のお知らせ

医学部フラテ編集部

同窓会新聞をご覧の皆様、いつも学友会誌フラテをご購読いただき、誠にありがとうございます。皆様の暖かいご支援により、昨年発行の103号も大変ご好評をいただきました。

さて我々フラテ編集部では、今年度もフラテ発行に向けて準備を進めております。104号の発行は、今年3月上旬を予定しております。購読をご希望の方は、同封の振込用紙にてお支払いをお願い致します。注文および支払方法を、郵便振込みによる前払いとさせていただいておりますことにご理解をお願い致します。在校生につきましては、4月上旬にフラテを一部ずつ配布致しますので、別途お振込は必要ございません。

また、当編集部には103号以前の残部もございます。ご希望の方は、104号をお申し込みの際に、振込用紙にその旨をお書き添え下さい。別途、送らせていただきます。

なお、フラテの申し込みは11月と1月の2回のほか、103号巻末の払込用紙においても受け付けております。**すでに103号巻末の振込用紙にて申し込まれた方、11月の同窓会新聞に同封致しました振込用紙にて申し込まれた方は今回申し込む必要はございません。二重申し込みをなさらないようにご注意ください。**

また、同窓会新聞や同窓会費についてのお問い合わせは同窓会（011-706-5007）へご連絡をお願い致します。

＜104号の主な内容（予定）＞
・特集記事
「医師の多様な働き方
―医系技官について（仮）」
・フラテ各地を行く～栃木編～
・教室便り（医学部の各教室のご紹介）
・新研究科長　吉岡充弘先生
インタビュー
・みどりのベンチ
北海道家庭医療学センター
中川久理子先生　インタビュー
・フラテ茶苑（先生方の御寄稿文）
・学生の広場（学生の寄稿文）　など

※フラテ編集部へのご連絡・ご照会は下記宛にお寄せくださるよう、お願い申し上げます。

<お問い合わせ先>
フラテ編集部
TEL/FAX 011-736-1444（留守電あります）
E-mail:frate.med@gmail.com
〒060－8638
札幌市北区北15条西7丁目
北海道大学医学部内　フラテ編集部

フラテ祭2017開催報告

フラテ祭実行委員会事務局

去る9月30日（土）、第11回目となる「フラテ祭2017」は北海道大学ホームカミングデーと同日に開催いたしました。同窓生、教員、学生親族、関連企業の方々など約90名が参加されました。

第1部の施設・キャンパスツアーでは、「医学部施設巡り」「キャンパス巡り」の2コースを設けました。最先端の医療施設や教室の見学・広大なキャンパスをバスにてご案内し、どちらのコースも皆様に楽しんでいただきました。

第2部の講演会では、吉岡光弘医学部長が「北海道大学医学部・医学研究院の目指すもの－現況と展望－」、秋田弘俊北海道大学病院副病院長が「北大病院のがん治療」、齋藤和雄北海道大学名誉教授が「北大医学部の過去・現在・未来―創立100周年を迎えるにあたって―」と題してご講演いただきました。

その後、第13回音羽博次奨学基金授与式が行われ、12名の学生に奨学基金が授与されました。

第3部のフラテ交歓会では、医学部公認団体アンサンブル・フラテによる演奏と合唱で「学友会歌」「都ぞ弥生」が披露され、浅香正博同窓会会長の祝杯により開宴されました。医学部生による弦楽四重奏の演奏の中、和やかに歓談し、医学部生による活動発表では、参加者の皆様が興味深くご覧になっていました。最後に、参加者全員で「都ぞ弥生」を合唱し、秋田弘俊北海道大学病院副病院長のご挨拶にて閉会されました。

今年度も多くの方のご支援とご協力をいただき、無事にフラテ祭を終えることができましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。

第2部　特別講演　齋藤和雄名誉教授

第3部　交歓会の様子

総会、新入会員歓迎会のご案内

同窓会総会

平成29年度定時総会を下記により開催しますので、ご出席くださるようご案内いたします。

日　時：平成30年2月11日（日）
　　午後6時30分より
会　場：札幌パークホテル 高砂（3階）
所在地：札幌市中央区南10条西3丁目
電　話：011－511－3131

議事
1. 協議事項（予定）
　⑴平成28年度会計収支決算
　⑵平成28年度会計監査
　⑶その他
2. 報告事項（予定）
　⑴庶務・事業報告
　⑵平成29年度会計収支中間報告
　⑶その他

総会終了後、平成29年度フラテ研究奨励賞授賞式を予定しています。

新入会員歓迎会

総会終了後の午後7時30分より、同ホテル（3階）エメラルドにおいて、第94期生の入会歓迎会を開催します(参加費は無料)。

ご参加いただける方は、電話又はメールにより2月1日（木）までに同窓会事務局へご連絡ください。

告 知 板

＜教授就任挨拶＞

順天堂大学国際教養学部グローバルヘルス・サービス領域　教授

湯浅（ゆあさ）　資之（もとゆき）(63期)

日本最古の西洋医学塾として開校した順天堂大学は2016年4月に5番目の学部として国際教養学部を開設しました。本学部は日本で唯一学部レベルからグローバルヘルスを学べるコースを開設し、国際保健を専門とする私は医学部から移籍しました。北大卒業後、公衆衛生の道に進み、フィリピンやブラジル等での国際協力を経験して参りました。現在もミャンマー、タイ、ボリビアで研究をしております。これまで同窓の先生方には様々な面でご支援を頂いており感謝しております。母校の発展を祈りつつ、今後とも先生方のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

＜平成29年度　北大医学部 東京フラテ会総会のご案内＞

平成29年度の東京フラテ会総会を、下記のとおり開催します。同期知友をお誘いあわせの上、ご出席くださいますようご案内申し上げます。

日時：平成30年3月10日（土）
　　午後5時受付開始
会場：学士会館　2階
　　（地下鉄 神保町駅 A-9出口 1分）
　　東京都千代田区神田錦町3－28
　　Tel 03-3292-5936
会費：12,000円、但し新卒から83期
　　までは5,000円

講演会：午後5時30分から6時30分203号室
講師：横浜市立大学 がん総合医科学教授　市川靖史先生(62期)
議事：午後6時30分から6時45分203号室
懇親会：午後7時00分から　202号室
東京フラテ会 会長　松谷 有希雄（51期）
【お問い合わせ】
事務局　武蔵村山病院長
鹿取 正道（67期）
Tel　042-566-3111（代）
e-mail　mkatori@yamatokai.or.jp

＜学内･院内人事異動＞

＜辞職＞

平成29年10月31日　三山　博史(75期)　循環器内科 助教(北海道大野記念病院)

＜採用＞

平成29年12月1日　大澤　昌之(74期)　形成外科 助教
　　福島　新(79期)　循環器内科 助教
平成30年1月1日　辻野　一三(66期)　呼吸器内科学教室 特任教授

＜昇任＞

平成29年11月16日　本間　明宏(65期)　耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 教授

＜配置換＞

平成30年1月1日　渡部　拓(77期)　呼吸器内科学教室 助教(内科Ⅰ助教)
　　大平　洋(会員2)　内科Ⅰ助教(呼吸器内科学教室 助教)

2017年度 東京フラテ会総会集合写真(東京、学士会館)

事務局からお知らせ

同窓会費について

○会費納入のお願い

会員の皆様には、会費納入にご協力いただきありがとうございます。

同窓会の事業は会員の皆様の会費によって運営されています。今後も意義ある同窓会活動を継続していくために、会費納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

○会費納入方法

①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込のいずれかによります。

※詳しくは同窓会新聞に同封される払込票裏面をご覧ください。

○会費未納者と刊行物の送付

・未納会費が2年を超える会員には、会員名簿（同窓会誌）をお送りしません。
・納入が9月30日を過ぎると、入金確認及び印刷部数確定の都合によりお送りすることができません。

○会費免除者と刊行物の送付

・会則により、卒業後55年を経過した会員の会費は、翌年度から免除となります。
・37期生は平成29年度から、38期生は平成30年度の会費から免除となりますが、免除前に２年を超える未納会費がある会員には、会員名簿（同窓会誌）をお送りしません。

同窓会費納入のお願い

同窓会事業は会員の皆様から納入された会費によって運営されています。会費納入にご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では、会員のための「ドクター総合補償制度」を創設し、随時募集を行っています。

現在、本制度には500名近い会員の皆様が加入しており、大変ご好評をいただいています。

ドクター総合補償制度には「医師賠償責任保険（勤務医向け）」、「医療・がん保険」、「所得補償保険」があり、団体割引が適用されるので個人での契約に比べて割安な保険料で加入することができます。

ドクター総合補償制度につきましては、同窓会事務局にお問い合わせください。

電話　：011-706-5007
E-mail：furate@med.hokudai.ac.jp

会員名簿の処分にお困りの方へ

会員名簿には個人情報が掲載されていますので、ご不用になった名簿は、例えばシュレッダー処分または焼却処分をお願いいたします。なお、ご自身で処分が困難な方は、郵便又は宅配便により同窓会事務局へお送りください。

なお、恐縮ですが送料は各自でご負担願います。

〒060-8638　札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部
北海道大学医学部同窓会事務局

ご寄付のお願い

同窓会では、企業、団体、個人の皆様に、同窓会事業支援のためのご寄付をお願いしております。

ご寄付をいただいた場合、ご了承を得て同窓会新聞にご紹介し、10万円以上のご寄付には、楯または額による感謝状を贈呈させていただきます。

ご寄付につきましては、同窓会事務局にご連絡ください。

電話　：011-706-5007
E-mail：furate@med.hokudai.ac.jp

北海道大学病院男女共同参画推進室をご存知ですか?

こんにちは。北大病院男女共同参画推進室と
北海道医師会女性医師等支援相談窓口からのお知らせです。

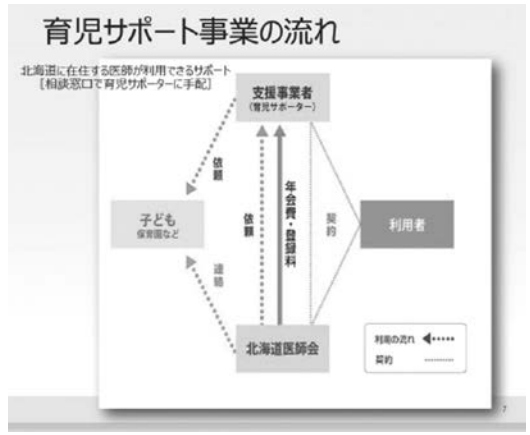
北大病院男女共同参画推進室では北大病院に勤務する医師を中心とした職員の職場環境改善に取り組み、北海道医師会では、北海道に在住する全ての医師が利用できる「女性医師等支援事業」を推進しています。

北海道大学病院男女共同参画推進室　特任助教／北海道医師会女性医師等支援相談窓口コーディネーター　清水　薫子(78期)

北海道大学病院男女共同参画推進室は女性医師等就労支援事業として北海道からの助成を受け2010年より開始となっております。（URL: http://hokudaijyoishien.sakura.ne.jp/）自身のペースでの就学前のお子さんをお持ちの医師が利用できる短時間雇用制度や病後児保育室ぶらん、病院附属保育園ポプラの運営・管理を行っております。さらに啓発活動としては院内講演会や若手医師への情報提供として、先輩医師からの話をアットホームな雰囲気で聞ける「おしゃべりの会」を行っております。また昨年度から医学部2,4年生への授業参画もはじめており、本年度は「プロフェッショナリズム」として2年生の授業では肺癌患者様とその主治医（内科1　品川尚文講師）にお越しいただき、肺癌を通して医師としてのプロフェッショナリズムや医師・患者関係における基盤を学んでいただきました。復職に関しましても休職期間を経て、当室窓口での調整を通し、実際に復職された先生もいらっしゃいます。保育園探しから復職・キャリアに関する情報提供等も行っておりますので、ぜひお気軽に連絡をお願いします。また北海道大学人材育成本部の女性研究者支援室との連携も良好で、小学生から高校生までを対象に医師の職務紹介も行っておりますので、お子様とご一緒にぜひお越しください。

そして北海道医師会も広い北海道の様々な地域に勤務のすべての医師のため、精力的な活動を展開しております。

特に、育児サポート事業は医師会と育児サポート事業者の間で契約を行い、事前登録を済ませた先生のお子さんの病児・病後児や緊急時、急な出張などによる宿泊の預かりも行っています。急な発病で保育園に預けられない際の、病児・病後児の預かりでは、かかりつけの小児科への受診も対応します。北海道大学の病児保育サポートシステム「さんりんしゃ」の終了に伴い、北大病院にお勤めの多くの先生にも登録していただいています。



専用ホームページには「体験談」コーナーや「道内の院内保育所のある病院を検索できるサイト」もあり、医局の人事異動による次の赴任先での保育の心配事など、北海道大学医学部の卒業生や大学で勤務されている先生にもご活用いただいています。

是非一度アクセスしてみてください。
http://www.hokkaido.med.or.jp/josei-dr-shien/

また、北海道医師会は勤務医の勤務環境改善にも取り組んでいます。患者からのクレームや暴力に対して腰の引けない医療を実践・実現するための、悪質クレーム・暴力の原因と対応策を学ぶセミナー、医師一人一人が生涯にわたり能力を十分発揮するために、医師、その他医療スタッフのワークライフバランスを考えることができる「育ボス」セミナー、医学生・研修医を対象に医師として働き続けることに対する意識や、そのために必要な環境整備など、将来の離職防止を目的とするキャリアデザインセミナーなども開催しています。機会があれば、是非ご参加ください。もちろん、託児室併設です。

大学病院を含めた北海道内の医療機関に属する医師の就労環境改善・キャリアサポートを様々な連携により進めていけるよう努力いたしますので、引き続きご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

新刊書紹介

「なぜがんと闘うのか」

小林　博(28期)
公益財団法人
札幌がんセミナー
¥648

国際的に高名ながん科学者である著者は、かつて肺がんを患ったときの心境を本書冒頭でこう述懐している。

「定年を控えた頃に肺がんになり直ぐに手術を受けた。当初は、「がんと闘う」高揚感と緊張感に魅せられたが、術後2年ほどで、がんの再発・転移の心配で落ち込み、「人間なんて弱いもんだなぁ」と痛感した」

その著者が今、卒寿を迎えてなお矍鑠として公益財団法人「札幌がんセミナー」を主宰、市民のがん知識の普及と「がん予防」に精力的な実践活動を続けている。

がんを患った人が、自らの体験を活かして社会的貢献に努めることを「キャンサーサバイバーシップ」の実践と呼ぶが、本書もまた、こうした人生経験を踏まえた著作の一冊である。

本書の「はじめに」に、以下のような言葉が書かれている。

「なぜがんと闘うのか。死にたくないとの素朴な願いからか。でも、がんと闘うことは死生観を学ぶために与えられた絶好の機会でもある。逃避することなく真正面からぶつかってみよう。」

実に挑戦的な問題提起ではあるが、文章は読みやすく、「「がん」の本質を知る」、「「生と死」からみたがんーがんは憎いか」、「「老い」からみたがん」の3部にわたり詳説されている論点は多岐にわたり、そのどれもが要を得ており、がんを患う人とその家族、医療関係者、市民の、緊要の疑問「なぜがんと闘うのか」に、それぞれが自分の置かれた状況や立場で自ら回答を導き出す良きアドバイザーともなっている。お薦めしたい良書である。

（28期　方波見康雄）

「関節リウマチの画像診断」

杉本　英治(56期)
神島　保(70期) 編集
メディカル・サイエンス・インターナショナル
¥7,776

関節リウマチ患者が前のドアからはいってくれば、医師は後ろのドアから逃げ出す、とは、かつて関節リウマチの治療がいかにむずかしかったかを顕著にあらわす表現であった。しかし、近年の薬物療法の進歩により、関節リウマチの予後は格段に改善した。正しく治療介入されれば、この疾患は6割以上が寛解導入可能である。本書は、リウマチ画像診断学の本邦の第一人者、杉本英治博士と、その弟子にあたる神島保博士が、リウマチ診療に必要な画像の基本知識をまとめたものである。関節炎の評価に必要な画像の基礎知識からはじまり、リウマチに関する画像診断学のA to Zが初学者からベテランまで幅広い読者を対象に記載されている。画像診断の哲学だけではなく、鑑別のキモなど日常診療にすぐに対応する構成となっている。さらに、関節リウマチの臨床試験に必要な単純写真画像評価方法であるシャープスコア変法、先進的な研究に応用されるMRIのラムリスコア、超音波評価法など、臨床研究の実践に有用な知識もふんだんに記載されている。これからリウマチ学を学ぼうとするものはもちろん、リウマチ学を極めようとするシニア層の先生方にもぜひご活用いただきたい書物である。この書物が手元にあれば、さらにレベルアップしたリウマチ診療の実践が可能である。診断学も薬剤もここまで進歩したいま、もはや、後ろのドアは閉められており、リウマチ医の逃げるところはない。

（64期　渥美達也）

「ハートチームのための心臓血管外科手術周術期管理のすべて」

國原　孝(67期)
メジカルビュー社
¥9,720

「1冊あれば周術期の達人になれる！」本書の帯に書かれたこの言葉に嘘偽りはない。

執筆陣は、ドイツと日本で研鑽を積んだ大動脈弁形成術を含む心臓血管外科手術の第一人者である編者を筆頭に、臨床の最前線で働く医師ならびにハートチームを構成するほぼ全ての職種者からなり、医師のみでは見落としがちな領域も全て網羅し、今までの周術期管理の本と一線を画している。

内容はエビデンスに基いて記載されているのは勿論、十分なエビデンスのない項目についても現在判明している情報を元に丁寧に解説されている。各章は見易い図表とともに、「Point」「こが大事」「Stop it ！」がまとめられ、重要な点が一目瞭然となっている。章末には略語と引用文献の一覧を載せ、心臓血管外科手術周術期管理に不慣れな方にも分かりやすく、またハートチームメンバー間での語句の共有や情報の補完がし易い。基本的な知識の確認から、日々の診療で直面する難題に対する指南書の役割も担う本である。また、治療のみならず、インフォームド・コンセントやリスクマネージメントについても十分に文面を割き、周術期管理の包括的な内容となっている。

多職種連携の重要性が叫ばれる現在、本書は時宜を得た名著であり、心臓血管外科医師のみならず全てのハートチームメンバー必携の書と考える。循環器領域や周術期・全身管理に興味のある方にも一読をお薦めする。

（73期　加藤裕貴）

「ドラキュラ女子のための貧血ケア手帖」

濱木　珠恵(73期)著
主婦の友社
¥1,404

隠れ貧血、という言葉をご存知だろうか。隠れ貧血とは、Hb値が正常であるにも関わらず体内の鉄分が不足している状態で、潜在性鉄欠乏症ともいう。全身倦怠感などの女性の不定愁訴は、実はこの潜在性鉄欠乏症や鉄欠乏性貧血などが原因のことがあり、NHK「あさイチ」など多くのTV番組や雑誌で特集されるなど、最近注目を集めている。そして、これらの番組や記事でコメントを求められる医師としてよく登場するのが筆者である。

筆者は卒業後、東京都内の複数の有名総合病院で血液疾患を専門に診療に従事し、現在は院長を務める都心のクリッニクの貧血外来で多くの患者を診療しており、貧血治療に豊富な経験を持つ。

日本人女性の鉄摂取量は不足しており、50歳未満の女性の1/5が貧血であるという。Hb値が9-10 g/dl程度の貧血の場合、体調不良に気がつきにくく、また、不定愁訴の理由を年齢、多忙、睡眠不足、と貧血以外に求めてしまいがちである。一般女性に向けてイラストやマンガを交えてわかりやすく構成された本書は、貧血について成因、症状、治療、食生活などの日常生活の注意点を啓蒙する内容となっている。

驚くことに、筆者自身も、採血するまで自分の貧血に気が付かなかったことがある、と本書や「あさイチ」で語っている。学生時代から現在に至るまで、貧血から最も遠いところに位置する筆者の人物像からは想像し難いこの事実は、本書の説得力をより高めている。

（73期　村尾尚規）

北海道医学会からお知らせ

○北海道医学会について

北海道医学会は北海道における医学と医療の進展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。現在は、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者のほか本会の目的に賛同される方々を一般会員として、また道内の主要医療機関には特別会員として、本会に功績のあった方々には名誉会員としてご参加いただいています。

○主な活動内容

・機関誌「北海道医学雑誌」の発行（5月、11月：平成29年は第92巻）
・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催（10月下旬：昭和42年から実施）
・若手研究者への「研究奨励賞」の授与（年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施）

※北海道医学雑誌は大正12年8月の創刊以来、戦中、戦後の一時期を除いて今日に至るまで継続して刊行され、北海道における医学総合雑誌として広く認知されています。
本誌は原著論文、学位論文以外にも、「研究会」「教室だより」などのセクションにおいて会員の様々な活動を紹介しています。

○会員の状況（平成29年9月30日現在）

・一般会員 708名　（年会費　4,000円）
・学生会員　7名　（年会費　1,000円）
・特別会員　76団体（年会費 25,000円）
・名誉会員 121名

○入会のご案内

本会に入会されていない同窓会員におかれましては、是非ご入会いただきますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。

なお、会員には機関誌「北海道医学雑誌」を発行の都度お届けいたします。

入会方法は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

○「北海道医学雑誌」の原稿募集

・募集する原稿は、「原著論文」「症例報告」「総説」「速報」「学位論文」「学位論文の要旨」「BAY（Best Articles of the Year)」「研究会抄録」「談話会抄録」等です。
・「教室だより」「海外だより」等、論文以外の投稿も歓迎します。
・投稿者は北海道医学会会員であることを原則とします。

・投稿規定、掲載料等は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

○お問い合わせ先

北海道医学会事務局
電話　：011-706-5007
E-mail : digakkai@med.hokudai.ac.jp

○北海道医学会ホームページURLの変更について

2月から北海道医学会のホームページのプロバイダ移管に伴いＵＲＬが変更になります。

新しいＵＲＬは次のとおりです。
http://www.hokkaido-med-society.org

同窓会費の納入は口座振替で

同窓会費の納入方法は、①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込のいずれかです。

特に口座振替は、店頭へ出向く手間が省けます。また、納入忘れがないのでとても便利です。

口座振替を希望する方は、事務局にお申し付けください。手続きに必要な「預金口座振替依頼書」をお送りします。**ホームページからもダウンロード出来ます。**必要事項を記入の上同窓会事務局へ送ってください。
電話：011-706-5007
E-mail：furate@med.hokudai.ac.jp

同窓会ホームページURLの変更について

2月から同窓会ホームページのプロバイダ移管に伴い現在のURLが変更になります。
新しいURLは次のとおりです。
http//www.hokudai-med-dousou.com

ご逝去者

新聞158号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏　名	期	御逝去年月日	氏　名	期
平成29年			10月10日	岡　田　英　資	47
4月	田　辺　秀　治	21	10月17日	首　藤　榮　三	28
4月11日	箕　浦　正　弘	専4	10月18日	奥　村　正　文	33
4月29日	春　原　千　秋	23	10月19日	伊　集　　真	48
5月 6日	西　川　司　郎	29	10月20日	岩　田　豊　男	43
5月28日	仁　木　和三郎	30	10月30日	牧　　陽　一	専旧7
6月 1日	奥　野　利　幸	36	10月31日	古　河　知　行	58
7月 5日	今　井　和　夫	30	11月 2日	勝　木　良　雄	49
7月 7日	中　村　貞　雄	25	11月 4日	今　村　誠　志	40
7月17日	須　田　勇　浩	31	11月11日	村　上　　進	59
7月19日	菅　原　忠　邦	39	11月15日	石　田　　眞	35
7月24日	佐々木　須　一	専新7	11月26日	廣　瀬　憲　治	31
7月30日	加　藤　　巖	26	11月28日	三　浪　三千男	40
8月	山　崎　寛　志	36	12月 1日	勝　俣　　寛	43
8月10日	篠　原　正　俊	26	12月12日	杉　本　明　彦	88
9月27日	田　辺　信　夫	専旧7	12月14日	小　島　公　一	58

同窓会新聞は142号からHP上でご覧いただけます。アドレスは次の通りです。
http://www.med.hokudai.ac.jp/~alum-w/news/index.htm

一面の写真説明

「流氷の門」

松本　侑希保(98期 医学科2年)

この写真は2017年2月に卓球部の同期と知床を旅行した際に撮ったものです。早朝にウトロ港へ海を見に行ったところ、目に飛び込んで来たのは朝日に照らされてきらめく流氷でした。同期の皆がしばらくその場で流氷の広がる光景に目を奪われていました。ウトロ港にあった赤白の灯台が立つ堤防は門のようで、堤防の外にある流氷の海の広大さに思いを馳せられました。

編集後記

本誌の編集に携わる楽しみの一つに同窓の皆様の御活躍をいち早く知ることが出来ることがあります。今回は村中璃子先生の「ジョン・マドックス賞」受賞のニュースが飛び込んできました。インターネットなどでも広く報道されていますが、受賞の経緯やインパクトはご本人執筆の「エルムの仲間達へ－メディアと医学の間で－」を是非御覧下さい。村中先生おめでとうございます。益々のご活躍を祈念いたします。私の応援するファイターズから大谷翔平選手がメジャーリーグへ旅立ちますが、母校を離れた同窓生と同様に世界で大きく羽ばたく姿を北海道から精一杯応援したいと思っています。

（67期　樋田泰浩）

印刷所　大日本印刷㈱　〒065-0007　札幌市東区北7条東11丁目1番1号　代表(011)750-2205